

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	乙 第 1274 号	氏 名	川上 聡
論文審査担当者	主 査 花岡 正幸 副 査 安尾 将法 ・ 藤永 康成 ・ 大野 良治		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>IgG4 関連自己免疫性膵炎 (AIP) は多彩な膵外病変を伴うことが知られている。</p> <p>本研究は胸部病変を有する自己免疫性膵炎の臨床的、画像的特徴を明らかにすること、自己免疫性膵炎に対してステロイド治療が行われた症例における胸部病変の反応性を解析することを目的とした。</p> <p>自己免疫性膵炎と診断された 74 名、およびステロイド治療を施行された 65 名を対象とし、胸部 CT 画像所見の解析を行なった。</p> <p>その結果、川上らは以下の成績を得た。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. AIP 患者 74 名中 51 名 (68.9%) に肺病変を認めた。</li><li>2. 肺病変として気管支壁肥厚 (33.8%)、結節影 (24.3%)、網状影 (24.3%)、小葉中心性粒状影 (20.3%)、気腫 (18.9%)、すりガラス影 (17.6%)、気管支血管束肥厚 (10.8%) が認められた。その他、肺門・縦隔リンパ節腫大 (85.1%)、傍椎体病変 (6.8%) が見られた。</li><li>3. 小葉中心性結節は気管支壁肥厚との相関が見られた。</li><li>4. 胸部病変を伴う AIP 群は、伴わない群に比べて血清 IgG4 高値、補体低値、血清可溶性 IL-2 受容体高値の傾向があり、罹患臓器数が多かった。</li><li>5. 腎病変との合併が多かった。</li><li>6. 肺病変の多くがステロイド治療への反応が良好であったが、網状影、牽引性気管支拡張、気腫性変化、嚢胞はステロイド反応が不良であった。</li></ol> <p>これらの結果により、自己免疫性膵炎に伴う肺病変の特徴が明らかにされた。本研究の結果は自己免疫性膵炎を含む IgG4 関連疾患の病態解明、診断、治療の一助となると考えられる。よって主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			